

1 実践の趣旨

「学びの変革応援事業」として、実践校2校において、主に、Q-Uの分析に関する研修や児童生徒の人間関係づくりに関する研修など、各校のニーズに応じた研修内容及び方法を企画し、研修の支援を行う。特に、学級経営においては、同僚とチームを組み合わせながら親和的な集団づくりを実践するためのチーム会議を通して、担任が一人で抱え込むのではなく、チームで親和的な集団づくりを行えるような支援を行う。

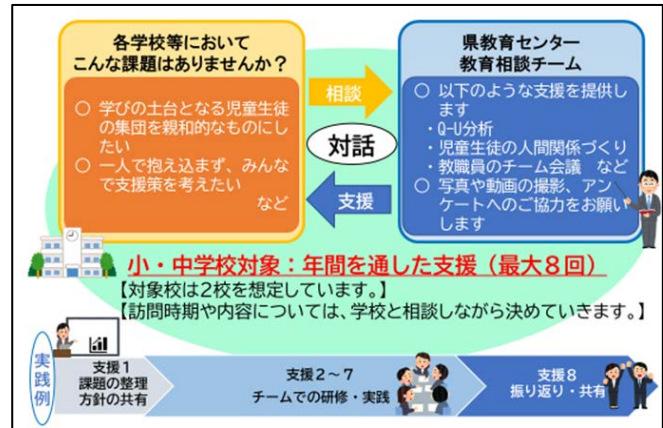


図1 教育相談チームによる実践

2 実践の概要

(1) 実践の目的

実践校のニーズに応じて、同僚とチームを組み合わせながら親和的な集団づくりを実践するための校内研修を支援する。

(2) 実践の内容及び方法

小・中学校各1校の実践校のうち、年間を通した支援を行っている中学校の実践を発表する。

① 親和的な集団づくりを目指すためのチーム会議

4月 現職教育の研究テーマと関連させた研修を通して、目指す生徒の姿や授業中に実践できる手立てをチーム会議において協議した。

7月 hyper-QUの結果から、1学期実践の成果及び課題を共有した。また、課題については、2学期にどのような手立てを講じるか、チーム会議において協議した。

11月 WEBQUの結果から、これまでの実践の成果及び課題を共有した。また、WEBQUの「ルール、リレーション、安定度、活性度」の分析結果から課題を見出し、今後どのような手立てを講じるか、チーム会議において協議した。

② Q-Uにおける「SOSサイン」の共有

Q-Uにおいて、特に学級への適応に課題がみられる生徒をクラウド上で共有し、個別指導に生かせるようにした。

③ 要望があった学級における学級経営コンサルティング

Q-Uの結果を基に、担任及び教育センター指導主事で今後の学級経営について検討した。

3 成果と今後の課題

(1) 実践の成果

○ 中学校においては、研修主任と連携しながら学校のニーズに合わせた親和的な集団づくりのためのチーム会議を現職教育の中で行うことにより、担任だけでなく、関係する先生方が同じ視点で親和的な集団づくりを実施することができた。

○ Q-Uの結果から、学級への適応に課題がみられる生徒をクラウド上で共有したり、学級の実態に応じて学級経営に係るコンサルティングを行ったりするなど、親和的な集団づくりをするための支援を行うことができた。

(2) 今後の課題

○ 本年度の事業を次年度にも反映させるためにも、本事業を活用するための年間モデルプランを作成し、年間を通した活用のプロセスを提案していく。